在校生・卒業生・保護者・教職員

進路通信 2017/10 中期

北海道釧路湖陵高等学校進路指導部

★特集　センター対策（駿台予備学校の入試研究会から）

　前回の続きです。今回は入試研究会に参加した高橋洋輔先生から引き続き数学ⅡＢについて、三坂先生からは英語についてまとめていただきました。

数学Ⅱ Ｂ　（高橋洋輔先生）
＜全体＞
昨年と比べ計算量は減少し、やや易化した。
特徴としては文字式の計算が増えている。アルファベットをマークさせる問題もあった。
数列で対数計算が出てきたり、対数関数の問題の中で内分点という話が出てきたり、複数の分野にまたがった出題が目立ったので注意が必要である。

＜大問構成＞
第１問（30 点）(必答・数学Ⅱ) 三角関数、指数関数・対数関数、
第２問（30 点）(必答・数学Ⅱ) 微分法・積分法
第３問（20 点）（選択・数学 B）数列
第４問（20 点）（選択・数学 B）ベクトル
第５問（20 点）（選択・数学 B）確率分布と統計的な推測

＜来年のセンター試験攻略のポイント＞
・まずは教科書に掲載されている定理・公式・解法をひととおりおさえておくことが重要である。各分野の中で、幅広く出題される場合もあれば、ある項目が重点的に出題される場合もあるので、苦手な項目はなくしておくべきである。
・例年、解答時間に対して問題量・計算量が多いため、限られた時間の中で素早く正確に処理することが求められる。日頃から解答時間を意識した演習を積んでおくことと、複数の解法を身につけて効率よく解答する力をつけておくことが大切である。また、数値だけでなく、文字を含む計算も多いため、文字処理力も強化しておきたい。
・試験時間中は時間配分を考慮し、わからない箇所があればその部分にあまり時間をかけすぎず、わかるところから取りかかるようにするとよいだろう。
　センターⅡ Ｂで失敗した生徒の典型例は、数学Ⅰ Ａに比べ計算量が多いため、１つのつまずきで焦ってしまいどんどんペースが狂ってしまうというものです。
・与えられた条件や前の設問をうまく利用することを意識して、問題に取り組む必要がある。うまく誘導に従うことで、計算や処理の量を減らすことができる場合も少なくない。値を代入してどうなるかを試行錯誤することも重要である。

英語　（三坂先生）
＜リスニング＞
【問題構成】
第１問　会話（短）イラスト･数字を選択
第２問　会話（短）応答文を選択
第３問　Ａ：会話（短）内容一致問題
　　Ｂ：会話（短）ピザの注文
第４問　Ａ：モノローグ（長）内容一致問題
　　Ｂ：会話（長）【３人】 内容一致問題

☆昨年度の変更がそのまま踏襲された。
第３問Ｂ：チラシ･予定表が与えられ、それを見ながら行われる対話を聞く問題に。
第４問Ｂ：３人の会話（討論形式）に。

☆スピードは昨年に比べてやや下がった。（昨年→約152/分，今年→約148/分）
　１分間に話される単語が多いほど、平均点は下がる傾向にある。

★偏差値60は上位15.866%なのに対して、偏差値70は上位2.275%と絞られてくる。
　この上位約２%は、12117位までの学生たち。以下の難関大学４校の定員数をみてみると、
　【東大：3063　京大：2866　一橋大：955　東工大：1068】
　これらの大学の定員に、医大受験の学生の数を足すと1万程度になる。→偏差値70の層
つまり、センターのリスニングではほぼ満点をとるようではないと、難関大学には届かない

【正答率が低かった問題の原因と対策】
1.「知らない内容･予期せぬ内容」のため、聞きづらい
　日本語ですら、突然友達の輪に入っていくと、「ん？なんの話をしているのだろう？」と理解に時間がかかる。
　→とにかく設問･選択肢に目を通すこと。内容を予測する力を身につける。
2．英語の音声（連音化･音の消滅，他）への慣れの不足（get outが「ゲラウト」と聞こえる、など）
　→リスニング練習の際、３回まではあきらめずに聞いてみる。それでも聞こえなければ、潔くスクリプトを確認する。
　その後、音読練習をし、自分の中に落とし込む。
3．語彙力･熟語力･定型表現の知識不足（選択肢にある単語の意味がわからない）
　→語彙力･熟語力の増強（正しい発音と共に身につける）
4．四則演算が苦手（数字は聞こえていても、それを素早く計算することができず、正しい選択肢が選べない）
　→同種の問題を数多く練習
5．正解の方向性が複数ある
　→消去法で解くべき問題に取り組み、解き方に慣れる。
６．正解の選択肢が放送内容を言い換え（もしくは抽象化）している。
　→読解でも内容一致問題に多く取り組み、言い換え表現に習熟する。
７．英語力･文法力の欠如（特にQuestions･応答表現･比較･倍数表現が苦手な生徒が多い）
　わからないと聞こえた数字･表現をそのまま答えてしまう。
　→英語力･文法力の強化

＜筆記＞
【問題形式・内容の特徴】
1.大学入試センター公表平均点　123．73（昨年→112．43）　易化
2.形式・内容は昨年度と同様

【各問題について】
1.発音
・発音頻出語というよりは、使用頻度の高いものが出題されている
2．アクセント
・カタカナ語（マリン、シビア、ユニークなど）の出題は多くない。
・アクセントのルールで解けるものがいくつか含まれる。
3．第２問
・出題形式に変更なし。
・問8～10は1つの問題で空所が２つある。
・自動詞・他動詞が弱い生徒が多い。
・前置詞はイメージを用いた指導をすることで、定着させやすくなる。
・make/have/letなどの使役動詞も、それぞれの持つニュアンスや特徴まで指導し、区別がつけられるようにしておく。
4．語句組み合わせ問題
・一昨年から登場した新傾向問題が引き続き出題される。
・会話形式で、２人目の発言中に空所
・「主語+述語」の関係を中心に、文法・語法や慣用的な表現を問う。
5．会話文
・昨年度と同様の形式
・発言の回数が４回と６回（昨年度は４回と５回）
・総語数（本文）約100語（昨年度約80語）に増加。
６．不要分指摘
・パラグラフの中で「まとまりをよくするために取り除いた方が良い文」を１つ選ぶ。
・総語数約380語（昨年度360語）昨年に比べ若干増加。
・英作文を書く際などに、日本語で考えると一見よさそうな、しかし英語では認められない、テーマの「ずれ」を指摘させる。
７．発言要約
・「発言要約」問題。パラグラフの要旨を簡潔にまとめていけばよい。
・総語数約570語（昨年度約500語）昨年に比べ増加。
・「主語+述語」の関係を中心に、文法・語法や慣用的な表現を問う。
8．広告文
・総語数約220語（昨年度約210語）昨年に比べ若干増加。
・問・選択肢の総語数約167語（昨年度135語）昨年に比べ若干増加。
・参照すべきところが少ない、素直な問題。
9．第５問　小説　長文読解問題
・2016年度と同じく小説。
・総語数約684語（昨年度695語）昨年に比べ若干減少。
・登場人物を確認→流れを押さえる（起承転結）のが大切。
10．第６問　論説系　長文読解問題
・総語数約599語（昨年度約550語）昨年に比べ増加。
・問・選択肢の総語数約280語（昨年度約220語）昨年度に比べ若干減少。

★６・７・９・１０の問題では、本文を読みながらパラグラフごとに一言テーマをつけておくと、内容を把握しやすくポイントも押さえられる。

★リスニング、筆記に共通している学習のポイントは、①発音を大切にする②予測する力をつける③言い換えに注意する　の３点。

★大学入試センターから新たな公表！

前回の進路通信において、「今年 11 月に高校２年生以上の生徒約５万人を対象に共通テストを試験的に行うプレテストを実施します。全国で 2000 校弱が選ばれ、道内は 70 校前後が対象になります。」としていましたが、１０月６日、大学入試センターから詳細も含めて改めて発表しています。

・プレテストでは正答を全て選ばせる問題、選択肢に「解なし」を設ける問題を一部で出題する。
・プレテストは１１月１３日～２４日、２月１３日～３月３日の２回実施。全国の高校１８８９校の延べ約１９万人が参加する予定。
・プレテストの１回目は１１科目、２回目は英語の未実施。

５万人の予定が１９万人と大幅に増えました。また、「全て選ばせる」「解なし」などの問題を出題し、受験テクニックで正答を導ける出題の見直しもはかろうとしています。

★『高校の勉強のトリセツ』
～つまづきたくない人　いまから挽回したい人のための

船戸惟希・山下佳祐著　　学研

高校生が思わず手を伸ばしたくなる本を１冊紹介します。



中学校から高校に上がると、勉強が難しくなり、「なかなか授業についていけない」という人も少なくないだろう。中には「勉強の仕方が分からない」という人がいるかもしれない。高校では学力が同レベルの生徒が集まるため、差別化を図るには、自分自身がいかに積極的に学力向上に取り組めるかが重要だ。
本書では、筆著の経験談を交えながら、高校時代を有意義に、かつ卒業後の進路を実現するために有効な勉強法やスケジュール管理等を提言している。コミック仕立てで項目ごとに分かりやすくまとめられており、要点をつかみやすい構成となっているのが嬉しい。
高校卒業後の進路選択は、その後の人生を左右すると言っても過言ではないだろう。理想の進路を実現するためにも、１年生のうちからコツコツと勉強するのが望ましい。自分に合った正しい勉強法を身につけて、一人ひとりが有意義な高校生活を送って欲しい。